

委員会行政視察報告書

大崎市議会 調査活動概要報告書

1. 視察概要

| | |
|--------------|--|
| 委員会名 | 市役所庁舎建設調査特別委員会 |
| 委員名 | 関 武徳、山田和明、八木吉夫、佐藤弘樹、中鉢和三郎、鎌内つぎ子、相澤孝弘、富田文志、後藤錦信 |
| 日時 | 令和元年5月23日(木)～令和元年5月24日(金) |
| 視察先 | 1. 栃木県大田原市 2. 埼玉県秩父市 |
| 出席者 (説明者) | 1. 栃木県大田原市財務部財政課新庁舎技術担当総括主幹 黒崎晃一 2. 埼玉県秩父市地域整備部建築住宅課主席主幹 大野真吾 |

2. 視察内容

| | |
|------|---|
| 視察項目 | 1. 庁舎建設事業について(栃木県大田原市) 2. 庁舎建設事業について(埼玉県秩父市) |
| 視察内容 | <p>1. 庁舎建設事業について(栃木県大田原市)</p> <p>旧庁舎が平成23年3月の東日本大震災により大きな被害を受け、使用不能となり、市役所庁舎整備基本計画が27年7月に策定された。その後、専門家や市職員する新庁舎整備委員会、市民からパブリックコメントにより28年3月に基本設計、工事総合評価落札方式により、契約した。設計業者とは基本計画後に契約し、その後基本・実施設計、施工者と3者契約している。当初45億5千万円であったが、その後、物資高騰や人手不足などで48億1千万円まで増嵩している。供用開始は31年1月である。</p> <p>延床 10,605 m²、9階建(執務室は8階までで9階は機械室)</p> <p>構造:鉄骨造・一部鉄筋コンクリート造(1階のみ)</p> <p>やはり、地震により庁舎が被災した経験から「災害に強い、免振装置」を配置しているほか、エコボイド「自然喚起システム」としてエレベーターの空間に煙突機能を取り入れ、空気を上部に逃す構造で省エネ効果が期待できる</p> <p>セキュリティ対策として、執務室や議場(傍聴席・市民ロビーを除く)もカードにより入所できるようになっており、最初、職員や議員も戸惑ったが慣れれば、大丈夫であるという。豊富な森林資源もあることでバイオマス産業都市の認定を受ける同市では、木材の利用を期待したものの、コスト面から玄関の総合案内デスクへの木材利用のとどめたという。特筆すべきでは、設計変更や事業費増嵩に対して、きちんとした判断ができるようコストマネジメント会社に委託していたことで、大きな効果があったという。</p> <p>当初予想していたことと大きく違ったのは、市民や関係団体等から絵画の寄贈があり、壁の確保や対応のためワイヤーフック等の経費がかかった。</p> <p>議場と傍聴席の人の出入りが7階と8階と分けていた、また、議席全体が狭く感じた</p> |

が、次期選挙(本年11月執行予定)から定数を5削減で21人になり、それを見越したということであった。議席の上に議案説明用のモニターもあったが、スペースが狭くなるうえ、従前よりタブレット端末を導入していたので、果たして必要なのかという意見も多くあった。

2. 庁舎建設事業について(埼玉県秩父市)

秩父市は平成16年11月に秩父市・吉田町・大滝村・荒川村と合併し、人口62,455人26,434世帯と人口減少傾向が続いている。

合併時の新市まちづくり計画で公共施設のバリアフリー化や耐震対策などを実施するとし、総合計画、改修促進計画を策定して取り組んできたが平成23年3月の東日本大震災により、市役所本庁舎と市民会館が使用できなくなるという緊急事態を受け計画していた施設の建設計画を延期もしくは中止して市役所本庁舎の建設を優先させることになった。庁内検討会は133回にも及び、市民要望も反映して本庁舎と市民会館の合築で建て替えるという内容の建設基本方針を掲げ、基本構想を策定し、設計業務プロポーザルで(株)佐藤総合計画と市内企業との特定設計共同企業体と契約、実施設計完了時に建設費高騰に対応するために総事業費を約58億円としたが入札不落、工事の一時延期を決定、工事内容を見直し新たに総事業費を65億円として再入札契約した

建設の基本理念は市民を守る「あんしん」、自然環境に「やさしい」施設として①災害に強く、防災拠点となる安心・安全な庁舎②利用しやすく、親しみやすい庁舎③環境にやさしいエコ庁舎④まちづくりの拠点となる庁舎⑤市民に開かれた議会機能を有する庁舎⑥郷土の誇り、芸術文化の創造空間としての市民会館⑦木材を活用し、秩父らしさを感じられる庁舎⑧効率的で、将来の変化に柔軟に対応できる庁舎。以上の建設方針に基づいて事業の進捗・財源の説明に入った。財源の概要だが基本構想49億円が実施設計約58億円、実勢価格約65億円と基本構想時から推移している。内訳だが合併特例債が32.5億円、基金が22.1億円、補助金8.5億円、一般財源1.9億円との説明があり、合併特例債の32.5億円の内訳として国から合併特例債交付金22.7億円+補助金8.5億円=31.25億円・自己財源額は償還額9.75億円+基金22.1億円+一般財源1.9億円=33.75億円。補助金の8.5億円は住宅・建築物安全ストック形成事業(設計のみ)で基本設計 3,038,000+実施設計 11,760,000+都市再生整備事業 840,000,000=854,798,000=8.5億円との事。庁舎建設の目的基金により市民負担額についても合併特例債の増額により一般財源の合計額から基金が当初より減額して市民負担の減額を図った計画に注目できた。(大崎市では庁舎建設を目的とした基金はないので特例債と一般財源のみでの事業となる)

建築計画では本庁舎は市民目線に立って安心して頼れる市役所として防災拠点(高度な耐震性能、緊急時は避難所、電気水道が止まっても一定程度は機能確保)木材を活用して秩父らしさを感じられる庁舎としている。庁舎はコンパクトに市民会館は機能は充

| | |
|------------|--|
| | <p>実させるとして市職員数による庁舎必要面積(国土交通省基準)よりも縮小した。文書管理や机の大きさを工夫したとの事。市民会館の内装材に秩父産木材を活用して議場や大ホール舞台根太、床材、壁材に多く使われており木のぬくもりと品格ある雰囲気であった。</p> <p>合築(庁舎と市民会館)のメリットは共有部分もあり効果はあったが、その分本庁舎が狭くなった。議会での全協室も設けていない、開催は4年間で2から3回程度である為に全協は議場でやっている(出来る)。委員会室は3部屋あり第1委員会室と第2委員会室は移動間仕切りで利用している。会派室も間仕切りで対応しているが、改選による議員構成によっては工事費が60万円位かかる。必要に応じて議員クラブ連絡会を開催して研修会や報告など、また高校生との意見交換会も行っている。議場は4階、上部を5階として外部をガラス張りにして明るく、5階部分も天窓により明るさが確保されていた。</p> |
| <p>考 察</p> | <p>1. 大田原市では、1階に事務スペースがなく市民協働フロアとしてカフェやホールや会議室などを配置しているが、かなりの頻度で利用されているという。また、事務所の個人の机というより、1枚のボードに数人で着座するタイプで収納もないが、慣れると苦情も減った。書類も少なく、新庁舎に移る前にファイリングシステムの研修を強化し、かなり集約したので、この部分は参考にすべきと感じた。外観が庁舎には珍しい曲線となっているが、地元のキャラクター那須与一の弓をイメージした曲線としている。</p> <p>2. 秩父市では、かなりの市有林があり、木材(ヒノキ)を売って加工してとっていたがうまくいかなかった。当初はただでできると思っていたが、すべて使えず使えるものを選んだ結果1000万円位の持ち出しになった。再生可能エネルギーでは太陽光はダメ、地熱も初めの段階からダメ、雨水等を地下に貯めてトイレや散水に利用しており月額9万円、年間110万円位の節約となっているという。</p> <p>今回、2か所の庁舎を視察したが、双方とも、東日本大震災で被災したところであり、かなり災害を意識した建設になっていた。当方でも経験しているので、その部分は参考にすべきと感じた。また、建設に伴う物資や人件費の高騰で契約変更など相当苦勞をしたことが伺えた。特に、大田原市ではコンサルタントにコストマネジメントを委託する等、正しい判断ができるという点では参考となった。</p> <p>さらに、両市とも地域資源として地元木材の活用をかなり意識したということであったが、木材使用については、それぞれコストの面で苦慮していた。本市でも地元の木材活用を推進していただきたいが、コストも意識しながら進めるべきと感じた。</p> |

以上